

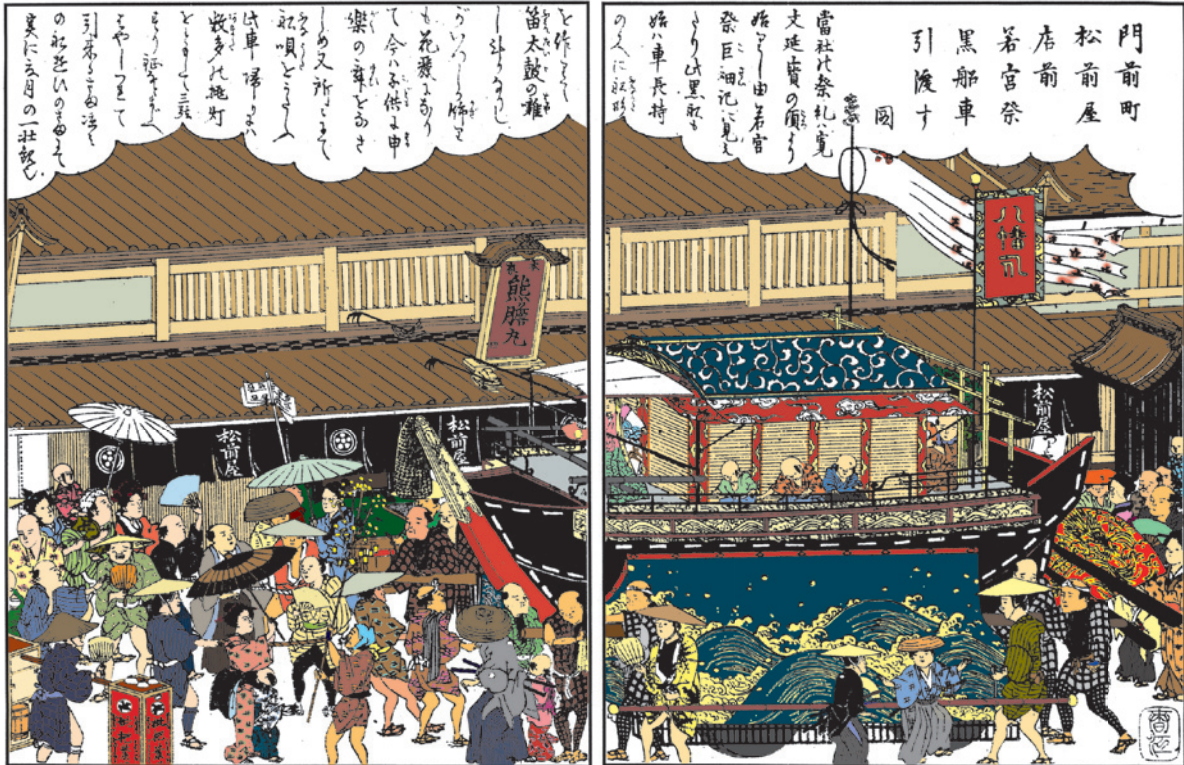
なごやのまち
今昔

尾張名所図会

門前町 黒船車

名古屋市中区大須二丁目、大須三丁目

若宮祭 心躍るまちの賑わい



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

➤ の絵は、尾張名所図会に描かれている江戸時代の若宮八幡社の祭礼で大須の本町筋を曳かれる黒船車の様子が描かれています。

若宮八幡社は、名古屋城築城の折、城内にあった社が、現在の地に遷座されました。若宮八幡社の祭礼は、寛文11年(1671年)から始まりました。江戸時代には、東照宮祭(東照宮)、天王まつり(亀尾天王社)、若宮祭(若宮八幡社)が名古屋の三大祭りと言われていました。若宮祭は、天王まつりと同じ6月15日、16日(旧暦)に行われ神輿と7両の山車が、若宮八幡宮から亀尾天王社をお旅所として渡御していました。図会にある末広町の黒船車は、若宮神社のお宮元の謂れで先頭を勤めており、船形をかたどり華やかで、笛、太鼓の囃子だけでなく、猿楽や舟歌をうたい、帰路には提灯をともし三弦すり鉦などまじえにぎやかに曳かれ若宮祭の名物になっていたようです。

若宮祭に曳かれた山車も残念ながら名古屋の空襲で大半が焼失、譲渡されたものもあり、現在残っているのは福祿寿車となっています。今年の祭礼でも、神輿や山車が曳かれ、沿道に多くの方が見物していました。当時のにぎやかな祭礼を偲ぶことはできなくなっていますが、山車の行列には多くの若者も参加しており、古き伝統をいつまでも守ってほしいものです。

また、現在、若宮八幡社の祭礼は5月15日、16日に変更され、亀尾天王社(那古野神社)の祭礼も7月の15日、16日と変更されています。



本町通を曳かれる福祿寿車



かつての松前屋付近の本町通(現在)

◆関連資料 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。
「尾張名所図会前編一」岡田啓/編愛知県郷土資料刊行会(S-c-a)
「新修名古屋史第四巻」新修名古屋史編集委員会/編(S-c-a)
「祭りと年中行事」熱田神宮文化課/編(S-c-a)

「大須物語」大野一英/著(S-e-o)
「名古屋市中区誌」中区制施行100周年記念事実行委員会/発行(2B21-2011)